

水上池付近の鳥 (58)

4月6日 (続き)

平城宮跡にはカルガモ、コガモ、バン、ケリ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、タヒバリ、ツグミ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ムクドリ、ハシボソガラスがいました。
(前田健)

シギ・チドリ、コミミズク (19)

4月7日 タ



まず、もう谷池の周りに行ってみました。頭が白いホオジロをまた見ることができました。今度は目の高さぐらいのところで見れたので、背中が見えました。背中も白色でしたが、少し茶色もまじっていました。飛んでいる時にも白いことはよく分かりました。他にキジバト、カワセミ、ヒバリ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、カワラヒワがいました。

広大寺池にはセイタカシギがいなかったようですが、望遠鏡を持っていかなかったのが、この時ははっきりとしました。

カイツブリ、ダイサギ(1)、コサギ(1)、アオサギ(9)、カルガモ(6)、コガモ(7)、ヨシガモ(21)、ヒバリ、ツバメ、モズ、ツグミ、スズメがいました。

コミミズクもいなくなってしまうようなので、井戸野池に行く時に田んぼは通らず、少し大回りして天理市蔵之庄町にある堀田池に行ってみました。アオサギ(2)、カルガモ(2)、コガモ(7)がいました。

井戸野池にセイタカシギがいました。やはり広大寺池からこっちに来ていたのです。最近ずっと広大寺池にいたので、ここで見るのは久しぶりです。ツルシギは11羽いました。だいよ黒っぽいのもいました。ハマシギはいませんでした。

コサギ、アオサギ、コガモ(8)、コチドリ(1)、ケリ、ツルシギ(11)、セイタカシギ(2)、ヒバリ、タヒバリがいました。

この後、井戸野池の南の方にあるいくつかの池に行ってみました。どれも初めて行く池です。

千束池(大和郡山市石川町)と石川南上・下池(石川町)には何もいませんでした。白土池(大和郡山市白土町)にはコサギしかいませんでしたが、その南側にある造成池(天理市機本町)にコチドリやケリが何羽かいるのを見ました。

上池と芝池(大和郡山市横田町)は、地図で見ると2つに分かれています。水が増えている、2つの池がつながっていました。なぜかこの辺りの池は2つに分かれて

いる池が多く、広大寺池も井戸野池も石川南上・下池も白土池もみんなそういう池です。

上池と芝池にはゴイサギ(2)、コサギ(1)、アオサギ(8)、カルガモ(19)、コガモ(2)、ハシビロガモ(4)がいました。

その後、今までも時々行っていた大垣内池の方は寄ってから帰りました。大垣内池は水が増えていて何もいませんでした。

この前までここにいたイソシギが、広大寺池に来ていたのかもしれません。

たこだ池やほけんだ池にも何もいませんでした。

(前田健)

ヤマモモ

飛火野の北側で、春日大社の参道沿いの、柵で囲った部分に、シラカシやウラジログリなどとともに、ヤマモモが植わっています。4月1日の早朝、散歩に出て、そこを通りがかりました。柵の周囲を歩いて、調べてみたところ、雄木が7本で、雌木が3本ようです。雄の花序(花の集まり)は大きく、赤くなっていますが、まだ枝先に立っていました。赤くなっているのは雄しべの葯の部分であり、この時期に雄しべは裸で、むき出しになっています。雌の花序は小さくて目立たず、雌しべはまだ、ほう(苞)の中に隠れています。飛火野のヤマモモの受粉の時期はもう少し先のようです。

奈良教育大学の生物学教室の南側に15年ほど前に植えたヤマモモが今年のはじめて花を咲かせました。残念ながら雄木で、たくさんの雄の花序が付きました。4月7日現在、すでに一部の雄しべの葯が破裂しており、枝を揺ると、花粉が煙のように出ます。まだ、花粉が散らない若い雄の花序は立っていますが、成熟して花粉を飛ばす花序は横を向いたり、下に垂れています。ヤマモモは雌雄異株で風媒花であり、ブナ科やカバノキ科の植物の場合のように、花粉を散らせる時点で、雄の花序は「尾状花序」をなして下垂し、風に揺れて花粉が飛びやすい構造になっています。

(北川尚史)

なぞの声

3月の終わりごろから、高畑合同宿舎の周りで、早朝に変わった声でさえずっている鳥がいます。アカハラに似た声なのですが、少し違った感じで、「何だろう?」と思っていましたが、まだ正体を見に行ってはいませんでした。

4月8日の朝にもこの鳥はさえずっていました。正体を確かめてやろうと思って、見に行く前に、まずどこで鳴いているのかよく聞いてみました。声は始めは南側から聞こえていましたが、その後教育大学附属幼稚園の向こうの方へ移動したようでした。でも、その後すぐに鳴き止んでしまったので、結局見に行けませんでした。アカハラに似た声なのでシロハラかツグミだと思います。

(前田健)

前田健が学校へ出かけたすぐ後に、私は宿舎の敷地で鳴き声を探しました。そして声の正体らしい鳥を見ました。鳴き声が止み鳥がさえずっていた辺りから1羽の鳥が飛んで来て近くの地面に止まりました。その鳥はシロハラでした。おそらくこのシロハラがさえずっていたのでしょう。

(前田喜四雄)